

## 第2回 東京都北区学校施設跡地利活用検討委員会 議事録

日 時：平成30年5月28日（月）午後7時00分～午後8時56分

場 所：北とぴあ 14階カナリアホール

### 1 開 会

### 2 議題

(1) 地域代表者との意見交換会

①旧赤羽台東小学校

②旧滝野川第六小学校

(2) 本日のまとめ

### 3 その他

### 4 閉会

出席者	北原理雄委員長	藤井穂高副委員長	
	川村匡由委員	黒田静男委員	荒木正信委員
	齋藤邦彦委員	齋藤範行委員	中嶋 稔委員
	中澤嘉明委員	横尾政弘委員	

### 議事要旨

#### ○委員長

皆さん、こんばんは。これから第2回東京都北区学校施設跡地利活用検討委員会を開会します。夜7時という遅い時間、お疲れのところお集まりいただきましてありがとうございます。委員の皆さんは、先ほどの視察について、大変お疲れさまでした。本日も活発にご議論いただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

まず初めに、事務局から配付資料の確認をお願いします。

#### ○区

皆様こんばんは。事務局でございます。

では、配付資料の確認をさせていただきたいと思っております。

まず、第2回、本日の学校施設跡地利活用検討委員会の次第でございます。もう一つが、前回、第1回目の配付資料に関しまして、一部誤りがございました。資料の差し替えということで、資料7-6と、資料8-5、同じ内容の資料でございましたので、改めた資料を本日お配りさせていただいております。具体的には、施設の現況というような資料になってございますけれども、赤羽西地区の社会体育施設の数に誤りがございましたので、本

日のものが正しい版ということになってございます。おわびして訂正をさせていただきたいと思います。

そのほか、委員の皆様には、参考資料ということで、本日の進め方、進行手順といったものをお配りさせていただいております。

以上でございます。

#### ○委員長

はい、どうも。資料、お手元にそろっていますか。

それでは、議題に入ります。議題の1番目、地域代表者との意見交換会について、事務局から説明をお願いします。

#### ○区

それでは、地域代表者の皆様との意見交換会の進行手順ということで、委員の皆様に参加資料ということでお配りをしております。今回の目的ということでございますけれども、地域代表者の皆様からご意見をいただき、また、委員の皆様と意見交換を行っていただきまして、当学校施設跡地利活用検討委員会が、有効な望ましい利活用を検討していく際の参考にさせていただくことを目的としております。

地域代表者の方、本日、全部で7名の方にお越しいただいております。

まず、旧赤羽台東小学校の地域代表者として4名の方、旧滝野川第六小学校の地域代表者として3名の方にお越しいただいております。

進め方でございますけれども、まず旧赤羽台東小学校の地域代表者の方々4名お越しいただいておりますので、お一人3分程度ということで、非常に短い時間で恐縮ですが、ご意見をいただきまして、その意見に基づいて委員の皆様と意見交換をしていただきたいと思います。その後、旧滝野川第六小学校の地域代表者の方、3名の方からご意見をいただきまして、委員の皆さんと意見交換をしていただくということでございます。

その後、検討委員の皆様には、本日いただいたご意見を踏まえまして、委員の皆様で意見交換をしていただくというような流れでございます。

以上です。

#### ○委員長

はい、どうもご苦労さまです。

それでは、意見交換会を進めていきたいと思いますが、今、事務局からご説明がありましたように、今日は、旧赤羽台東小学校と、旧滝野川第六小学校から7名の方にお越しいただいております。

初めに、旧赤羽台東小学校の皆様と意見交換を行います。まず、お一人ずつ、簡単に自己紹介をお願いします。

#### ○旧赤羽台東小学校地域代表者

すみません。こんばんは。桐ヶ丘地区、旧赤羽台東小学校の地域ということで、桐ヶ丘地区自治会連合会のほうから、代表で行ってこいということでありました。青少年桐ヶ丘

地区委員会の会長をやっています。よろしくお願いします。

○旧赤羽台東小学校地域代表者

赤羽台団地自治会の代表者です。

大分長いこと住んでいますけど、いろいろ見てきていますから、はい。

○旧赤羽台東小学校地域代表者

こんばんは。赤羽台西小学校の保護者代表ということで、赤羽台西小学校の前PTA会長、現在では相談役をやっております。よろしくお願いいたします。

○旧赤羽台東小学校地域代表者

八幡小学校前PTA会長です。

ここで生まれ育っているので、一応、赤羽を四十数年見させていただいています。よろしくお願いします。

○委員長

はい。どうもありがとうございました。

それでは、お一人ずつ、おおむね3分を目安にご意見、ご提案をお話してください。よろしくお願いします。

○旧赤羽台東小学校地域代表者

それでは、最初ということで、お話しさせていただきます。

参考資料ということで、お手元に北区の防災ハザードマップからコピーしたものをお渡ししております。その関係で、まず、東小の跡地利用ということで、まず1点目が、旧赤羽台東小のある地域は、東京都の総合危険度の5段階中1段階、1ということで、非常に安全であると言われております。ただ、赤羽西地区は住宅密集地であるとか、崖沿いのところが多かったり、また、荒川の河川敷に近いということで、浸水する地域が非常に多くなっています。地図で言うと、線路を越えた地域とか線路の向こう側も、ほとんど越えちゃうということでかなりの危険度があるということで、そういう関係でも、災害があったときの避難所としての有効活用ができるのではないかなど。

それと、大規模災害があったときに、埼玉のほうへ戻る方の帰宅困難者が出た場合、前の東日本大震災のときにも赤羽地区の小学校は、帰宅困難者の避難施設として、東京から埼玉のほうへ戻る方もかなり使われたということも聞いています。また、全部生徒さんのいる学校がそういうふうになっちゃいますと、今度、生徒さんたちの行くところがなくなってしまうということで、このところをうまく利用していただければ、避難所としての長期利用も可能かなというふうに思います。

あと、もう一点は社会体育施設。この場合、今ちょっと訂正資料でも配られていますけども、赤羽西地区はかなり社会体育施設には恵まれているんですけども、この部分、一般の地域に住んでいる人たちが利用するというのは、ものすごくしにくいんです。というのは、当然、区の施設ですから、申し込みも2カ月以上前じゃなきゃいけないとか、団体登

録をしていなければいけないとかいうことがありまして、地域の人たちが気楽に使えるようなところがないということもありますので、そういう形で学校施設をうまく使えないかなど。特に、旧赤羽台東小学校の場合は、今まで保育園等の耐震工事でかなり利用されていますので、1階の部分がほとんどバリアフリーの状態、保育園の3歳児、4歳児が使うようになっていますので、避難所というか、バリアフリーの施設になっていますので、避難してきたりと。また、桐ヶ丘地区というのは、かなり北区の中でも高齢化率が高いところなので、そういう高齢者の方たちが気楽に運動したり、また、子どもたちが学校を離れて自由に体力づくりができる、そういう形で使えればいいかなと思っています。今の現状も、この地区はサッカーと二つぐらい、旧赤羽台東小があった時点からの子どもたちを教えていた指導者がいるということで、その施設二つ、その団体二つだけが現在も利用させていただいているという状態ですので、子どもの体力づくりとか、高齢者の方の体力づくりとかということで、十分活用できるような状態にさせていただきたいなというふうに思っています。

そんなような意見ですので、よろしくをお願いします。

#### ○委員長

はい。どうもありがとうございました。

それでは、旧赤羽台東小学校地域代表者をお願いします。

#### ○旧赤羽台東小学校地域代表者

正直言って、自治会は東小のことは余り検討しなかった。団地の建て替え事業で、約半分の土地が浮くわけです。そのうちのほとんど、3分の1ぐらいが東洋大学に売られる。それから、区には公園として出されている、売却されていますが、そういうことで団地の中に、どう、次のあいた土地をどう使うかという検討をずっとやっていたんです。そこへ、こういう問題が起きていろいろやったわけですが、個人的な意見は恐らく寄せられると思います。私たちは、そんな意味でかなり高齢化が進んでいますから、その人たちの医療・介護の施設が欲しいと。もしそれが、区として学校跡地につくられるなら、それはそれでよしというぐらいに思っていますが、もっとあいているURの土地に、それらをつくりたいというぐあいに思って、別紙になっていますが、UR都市機構に去年の8月、要望書を出したわけです。そんなことで、全体としてこういう考えだということです。

東小跡地だけについて言えば、三つあります。どんな施設ができるかは別として、今出していた災害時の避難拠点になるようなものをつくってほしい。今、体育館がありますが、これが私たち団地の避難場所になっているんです。それが一つ。

それからもう一つが、西小学校を建て替えるときに、最悪、東小を使って建て替えができるんじゃないかというぐらいに思っていたんですが、ここで使うとすれば、URのあく土地について、北区がある意味で責任を持って代替地を用意させてほしいと。それらができるならば、ここにいろんな設備をつくることについてはいいのではないかと、そういうぐあいに思っています。具体的なのは、参考としてURに出した資料のところにいろいろ書いてありますので、よろしくお願ひしたいと思います。

以上です。

○委員長

はい。どうもありがとうございました。

それでは、旧赤羽台東小学校地域代表者をお願いします。

○旧赤羽台東小学校地域代表者

赤羽台西小学校の保護者からの意見を発表いたします。

東小学校は自然環境に恵まれ、かつてはたくさんの児童が楽しく通い、良好な教育環境を提供してくれてくれた貴重な場所であったと存じます。よって、東小学校の跡地利活用にあっては、ぜひ、当時の目的と同じように、子どもたちのために還元できるような、有効活用を願っております。

そこで、保護者からは、旧赤羽台東小学校の跡地についてぜひとも子どもたちのための活用を願い、近隣の小学校の新校舎建て替えを視野に入れた二つの提案をさせていただきたいと思っております。

提案1として、近隣の小学校校舎建て替えの際に、仮校舎として活用すること。提案2として、赤羽台の地域の開発による人口増加を予測した観点から、旧赤羽台東小学校跡地を売却または等価交換し、新校舎建て替えが予定されている現存の小学校の敷地規模を広げることが要望したいと思っております。

まず、提案1についてですが、お手元の資料の1と2を参照してください。東小学校は、駅に近く、大変価値のある場所であると同時に、赤羽台西小学校、八幡小学校、桐ヶ丘郷小学校、駅の東側に、ちょっと地図には載っていないんですが、赤羽小学校も1キロ以内の場所に位置しております。赤羽台西小学校にあっては、昭和36年の建設でありまして、建設65年到達年度は平成38年度であるため、あと数年の間に改築・改修計画に入る時期となります。また、それに続いて、桐ヶ丘郷小学校、八幡小学校も、順番に建て替えの時期に入ることでしょう。その際の東小学校は、建て替え予定の近隣小学校の仮校舎として有効活用できるのではないかと考えます。子どもたちにとって、新校舎になることは、夢と期待を膨らませますが、しかしその反面、改築工事中の二、三年間は、仮校舎で大変不便な生活を強いられます。ふだん通り慣れた学校とは違う仮校舎までの毎日の登下校は、子どもたちの体力の負担のみならず、精神的にも相当なストレスが伴います。せめても、距離的に少しでも近く、かつ安全なルートで登下校できるような仮校舎であることが望まれます。そう考えたときに、この東小学校の立地条件としては、周辺の小学校の改築・改修計画に合致する適当な場所であると思っております。

続きまして、提案2、地域の開発による人口増加を予測した観点から、東小学校を新校舎建て替えが予定されている現存の小学校の敷地規模を広げることについて活用することについて説明いたします。

まず、ご存じだと思いますが、東小学校の周辺地域における昨今の状況としては、URのヌーヴェル赤羽台団地の建設、東洋大学新設学部の開設、また、桐ヶ丘中学校サブファミリーブロック内である赤羽台西小学校、八幡小学校、袋小学校、桐ヶ丘郷小学校による、4校を3校に統廃合しようという学校適正配置検討協議会があったことなど、目まぐるしくさまざまな変化が起こっております。

学校適正配置検討協議会は、2年の協議を経たものの、平成30年2月の協議で一旦終了しました。その終了の理由としては、簡単に言えば、周辺の集合住宅の整備計画がいまだに明らかになっていないということでした。つまり、ここ数年で、この地域の開発が未定であり、また、ひいては人口増加の動向が予測できないということでありました。

適正配置検討協議会で配付された資料、お手元の資料の3番をごらんください。この3番の資料の赤羽台西小学校を指定校とする地域に、新たな1,300戸の集合住宅と、赤羽西五丁目200～300戸の国家公務員住宅、合計1,500以上の新規住宅が建設される予定です。この黄色い部分がそのところになっています。そうすると、おのずと人口増加が見込まれます。地域周辺の開発に伴う人口増加の予測は、今の赤羽台西小学校の約300人の児童の3倍以上の1,000人になる予想だそうです。もともとは、昭和30年代、40年代当時、東洋一と呼ばれていた赤羽台団地の多くの子どもたちを、この赤羽台東小学校と、赤羽台西小学校の二つの小学校で受け入れをしていたものだと聞いております。しかし、そのピークを去り、平成17年に赤羽台東小学校が閉校となり、今この赤羽台の地域には赤羽台西小学校1校残っているのみです。そうすると、一番心配なのは、今後児童増加が予測される中で、赤羽台東小学校が現存しない今、西小学校の1校のキャパシティの敷地面積及び校舎の規模では、この地域の子どもたち全てを受け入れるということができるのか、大変不安に感じます。

そこで提案したいのは、先ほど提案1でも述べたように、昭和36年に建て替えられた西小がここあと数年で新校舎建て替えのタイミングになると思います。そこで、たとえ人口が増加したとしても、子どもたちの受け入れに余裕の持てるだけの規模の新校舎を建て替えるべきだと思い、ぜひ、敷地規模を広げることを検討してほしいと思っております。今の西小学校には約300人の児童が通学しておりますが、ピーク時よりも児童数は安定しております。しかし、実際のところは3年前、平成28年度からわくわく赤西ひろばと学童施設を校舎内に開設したことにより二つの教室が使えなくなり、また、それらのわくわく赤西ひろばと学童施設に関しては、子どもたちがゆったりと放課後を満喫して過ごせるだけの広さは今はありません。また、今はこの西小学校には学童を希望したくても入れない待機児童が12名もおります。もっと学校に併設されている学童の教室に余裕があったら、全ての児童が受け入れられるのにねと、保護者も嘆きの声が上がっています。したがって、この赤羽台西小学校の新校舎建て替えになったタイミングにあわせ、かつ、近隣の地域開発によって児童数の増加が予測されることを視野に入れて、ぜひ十分な広さの校舎、十分な広さの校庭を望みたいと思います。

また、赤羽台東小学校の地域の特徴であるUR都市機構の用地と一体化ということを観点に、より整備させていただいたら、より有効な活用ができるかと思えます。ぜひ、その要望の上で、赤羽台東小学校と近隣の建て替えの小学校の必要性、有効性をご検討くださることを希望いたします。

#### ○委員長

はい、どうもありがとうございました。

それでは、お願いします。

## ○旧赤羽台東小学校地域代表者

私のほうは、ちょっと順番が前後しますが、まず、先ほど地域代表者がおっしゃっていたとおり、小学校の老朽化が順次来ますので、そちらの代替校として利用したいということがまず1点。

それからもう一つ、私のほうの一番大きなところなんです、「赤羽ティーンズ・クリエイティブ」というものを創設したいということなんです。代官山に「代官山アドレス」という大きなマンションが、ご存じだと思うんですが、あそこのすぐ近くに、「代官山ティーンズ・クリエイティブ」という施設があります。こちらの施設はティーンズというだけあって、10代の小学校高学年から高校生までを対象とした施設になります。ティーンズって北区にも存在するんですが、ここに、2枚目の資料にコンセプトがあるんですけど、ちょっとこちらを読ませていただきたいと思います。

可能性を生み出し夢を描く。各分野で活躍するクリエイターの技術と、人間としての魅力に触れ、多様な価値観を持つこと。そして、一人一人が本来持っている可能性を広げ、生み出すこと。世代を越えて交流し、夢を描き、触れ合う場所。代官山ティーンズ・クリエイティブは、リニューアル後も仲間との交流を育む場として団体利用を継続しながら、週末にはさまざまな分野で活躍するクリエイターが講師を務める「アートスクール」、平日夕方には日がわりで興味のある分野を体験できる「ミート・ザ・クリエイターズ」を開催。クリエイティブとはどういうことかを体感しながら、自分の可能性の扉を開き、将来の職業選択に対しても興味と関心を持つきっかけづくりができる場所を目指します。さらに、アート作品やクリエイターからメッセージが壁紙、まあ、ここの辺はいいです。つまり、10代の子どもの居場所となります。

先ほど訂正で配られたこちらの資料ありますよね。こちらの資料の中には、この10代の子どもたちの居場所というものが、すっぱり抜けていると思います。余りないんですね。こちらの施設ですね、僕、一度訪ねて見させていただいたんですが、軽音楽の楽器類などが置いてあって、防音施設で子どもたちが好きに利用できます。もちろん予約したりはすると思うんですが。それから、一眼レフの本物のカメラですね、そういうものを子どもたちに実際に手にとらせて、実際に使わせて、本物を感じるということをさせているんですね。

2枚目の資料の下のほうにコメントされている方がいるんですが、茂木さんって、脳科学者の茂木さんなんですけども、この方もティーンズ・クリエイティブに足を運んで実際にお話をしてくださっている方の一人です。つまり、本当に最先端を走る方々たちが実際に10代の子どもたちと直接触れ合える場を提供できるというのは、すごく斬新だし、すごく刺激を受けると思うんですね。さまざまな方向性で、子どもたちというのは可能性を伸ばせると思うので、ぜひ、こういう施設をつくっていきたくと思います。

もう一点、ティーンズの施設だと児童館の延長線上を思い浮かべると思うんですが、こちらの施設ですね、お米と、それから炊飯器があります。つまり、子ども食堂を簡易的に兼ねる。しかも、子ども食堂は月2回程度しか活動できないことに対して、こちらの施設は、毎日、ほぼ毎日あいているので、休館日は火曜日と第三日曜日、年末年始なんですね。それ以外はあいているんですね。そうすると、自分たちでお米を炊いて、おにぎりをつくって、みんなで食べたりするんですね。ここに、誰も後ろめたさがない中で、生活の中の

一部としてお米を食べることができる。腹を満たすことができるというのは、すごく子どもの貧困に対して有益ではないかと感じております。ぜひ、このような施設ができることを願っております。

以上です。

○委員長

はい、どうもありがとうございました。

それでは、委員と意見交換を行いたいと思います。委員は、特に指名をしません、この意見交換では、ご自由に挙手の上、ご発言ください。

いかがですか。はい。じゃあ委員。

○副委員長

自治会の方々から、避難所や避難拠点というお話が出ているので、その場合の具体的な建物のイメージはどのようなものかということをお話していただきたいのが1点目です。それから、ティーンズ・クリエイティブは非常に面白いと思いますが、これはご提案者の個人的な意見ということでもよろしいですか。それとも、PTAの方々との話し合いの結果と受け止めてよろしいですか。そのあたり背景がわからないので、教えていただけますか。

○委員長

では、まず自治会の方々ではなく、PTAの方から。

○旧赤羽台東小学校地域代表者

一応、私のほうで広く知り合いに関して、PTA以外にも知り合いに関してこのような検討会があるのだけれども意見はないかということは募集しました。それに伴い、私としてはこういう施設をつくったらいいのではないかという意見も乗せて提供させていただいた上で、こういう方向性はいいんじゃないかということをご支持いただいております。

○委員長

それでは、自治会の方々。

○旧赤羽台東小学校地域代表者

すみません。避難所の関係ですけれども、とりあえず、あの施設は使えるかなというふうに思っています。多分、かなり古くなっているんで、大規模災害があったときにもつかなという心配もあるんですけれども、先ほど地域代表者のほうから言われたとおり、旧赤羽台東小は今、赤羽台団地の避難所になっていまして、区のいろいろな避難用の防災用品も一式そろえられております。

それと、団地のところに公園が二つできまして、地域の避難場所に指定はされているんですけれども、実際避難されて長くなったときに、じゃあ、公園にそのままテントを張って寝るよというわけにもいかないので、あの施設であればとりあえず高齢者の方も安心して

いられるのかなど。外で寝るよりはということ。特に新しいものをつくるとかということじゃなくて、あれをそのまま利用させていただいて、先ほど出ていました学校の建て替えのときの施設としても使えるというふうな形で考えてはおります。

○旧赤羽台東小学校地域代表者

新しくつくるという発想は余りない。いろんな施設をつくるならば、その施設は避難所も兼ねられるようにという意味合いでいる。今言ったように、公園はあるんですが、公園には建物は一切つくらないというぐあいになっていますから、非常食や何かの備蓄もできないわけですね。そういうために、これからもし何か新しいのをつくったならば、それは避難所も兼ねられるものにしていただきたいと、そういうような意味合いです。

○副委員長

ありがとうございました。

○委員長

ほかにいかがでしょうか。

ちょっと、地域代表者に一つ質問なんですけど、東小の土地を売ってほかの小学校を拡充する費用を捻出してはというお話でしたが、例えば、東小復活みたいな発想は、その際ないんですか。要するに、学童数が増えた。じゃあ、もう一度東小を復活したらどうかというような提案は、地元のほうからはない。

○旧赤羽台東小学校地域代表者

その点については、すぐ近くに八幡小学校があるというような観点から、もう、なくなってしまった時点で、ちょっと八幡小学校なのかなというような意見はあったり、また、指定学区域の変更とか、そういったもので児童数の変動はできるのかなとは思っているんですが、現状のままだと、このまま人口が増えたときに赤羽台西小学校の建て替えが、あの敷地でそれだけの大勢の規模、人数分を受けられないというものが、ちょっと不安に思っているところがありましたので、できれば、そこの東小学校を仮校舎もしくは、その土地を赤羽台西小学校のほうの敷地に少し広げる等で活用できたらなという意見がありました。

○委員長

はい。どうもありがとうございます。

○旧赤羽台東小学校地域代表者

地域代表者のこちらの資料を見ていただくと、とてもわかりやすいんですが、すみません、この黄色いところが売却予定場所というこの地図ですね。上のほうに東洋大学用地という白いところがあると思うんですけども、その下が教育文化地区で紫色になっています。この地区が両方とも東洋大学に売却されているんですね。つまり、その隣に東小があるんですけども、ちょっとこの地域の中、陸の孤島みたいに離れてしまっているんですよ。

だから、今まではここは団地だったので、通学を普通に二つに分ければよかったですけど、ちょっと使いにくい。

この東洋大学用地の真上に八幡小学校があるんですね。今現在は、学区域としてはここがもう全く分断されているのでないんですけれども。もし、八幡小学校が「じゃあ、少しこっち側をもらいましょう、もらい受けましょう」となった場合に、今度うちの桐ヶ丘地区のほうに、また1,600戸ほどの都営の団地が新設される予定なんですよ。それが重なると、お互いにちょっとどうかなという状況になるかなということが予想されます。

#### ○委員長

はい。よくわかりました。ありがとうございます。

委員の皆さん、いかがですか。

はい、委員。

#### ○委員

自治会の代表の方々にちょっとお伺いしたいんですが、お二人とも、この現地での地域医療福祉の拠点にというお話があったんですけれども、地元の医師会とか医療機関が、この計画についてどのようなご意見をお持ちなのか、また同時に、現在の医療資源の地域での貢献度、このあたりちょっと詳しく聞かせていただけますか。

#### ○委員長

はい。お願いします。

#### ○旧赤羽台東小学校地域代表者

地域との医療機関、この防災と医療施設と考えているところは、今、赤羽台団地の中に一つデイサービスのところがありますし、あと、桐ヶ丘に区のやまぶき荘という、そういう施設もあるんですけども、なかなか、どちらも施設より利用者の数があつた地域は多くて、実際行きたいんだけど行かれないというのもある。ましてや、今度東洋大学が来られたときに、ライフデザイン学部という、いろいろ見たら福祉絡みもあるということで、その辺との連携もできるのかなと。

地域の医療機関との対応ということでは、桐ヶ丘連合自治会のほうで、防災関係で地域の医療機関とか老人施設とかの代表の方とかに集まっていたいて、何かあつたときにどうしようという検討会議を。防災会議は、昨年度から第1回、今年度2回目ができるんですけども、その辺の中で、もしこういうことがあれば、協力体制をつくっていききたいなというふうには考えております。

#### ○旧赤羽台東小学校地域代表者

実は、昭和37年にできた団地のために、80代、90代の人がかかなり増えてきた。この人たちの在宅介護やショートステイ、こういう需要が増えているわけで、ところが、日生さんが今、入ってやっているのはデイサービスだけ。だから、これを何としてもつくりたいというのが、私たち自治会の希望なわけです。

若い人の問題もあるんだけど、消えていくという表現は悪いけど、年寄りの問題も、二つをやらないと、今、ちょうど切りかわっていく時期ですから、やらなきゃいけない。そのために、充実したものを何としても。だから、安心・安全・快適に過ごせるようにという希望から、こういうものが出る。団地内は診療所が一つありますけど、それだけです。年をとると外へ出られなくなるんですよ。これを何とかしたいなという希望があります。

○委員長

はい。どうもありがとうございます。  
委員。

○委員

私も福祉系の大学の教員として、東洋大学のライフデザインはよく知っています。つくった先生も、よく知っています。ただ、そう言ったら何だけど、福祉系だけなんですよ。私の大学もそうですけど。問題は、福祉系の大学と地元の医療機関、例えば医師会、あるいは地域包括支援センター、老人保健施設、特別養護老人ホーム、ここの連携が、まさに保健医療福祉との連携がお二人の願いじゃないかと思っています。保健医療福祉の拠点にならないかというのは、ここがそのポイントだと思うんですよ。そういう意味では、まだデイサービスしかないというところでは、かなり、医療資源との連携がポイントじゃないかなと、こんなふうに感じました。

○委員長

はい。どうもありがとうございます。  
ほかに。はい、委員。

○委員

すみません。地域代表者にお伺いしたんですけれども、赤羽台西小学校の建て替え用地として使ったらどうかということについては、赤台西小の改築の順序を早くしてくれということとのセットというような意味合いでよろしいのかということと、それから、赤羽台西小学校をはじめ、ほかの小学校の用地拡張の、言葉が間違っていなければ等価交換による拡張や、売却するのであれば、その財源を充てたらどうかということのように聞こえましたけれども、その場合に、この当該、赤羽台東小学校跡地については、どのようなものにして、どのような事業者、例えば事業者に譲渡して、どういうものに使ってもらったらいいんじゃないかというような発想がとおりになるかどうかということをお伺いしたい。

それから、旧赤羽台東小学校地域代表者には、あわせて、赤羽ティーンズ・クリエイティブ、非常におもしろいと思うんですけれども、これに挙げられた代官山の例のように、それは北区の広域的なものとして、こちらのほうにつくったらどうかというような意味合いということで、多分よろしいということだと思ってるんですけれども、その確認と、それとあわせて、子ども食堂のこともおっしゃられたと思うんですけれども、それは、子ども食堂は、比較的地域と密着ということで、その施設の性格としては随分違ったものをおっしゃられているような気がするんですけれども、そういったところのイメージを、お持ちであれ

ば、少しお聞かせいただければと。

#### ○旧赤羽台東小学校地域代表者

赤羽台西小学校なんですけれども、先ほども申し上げたとおり、適正配置検討協議会が、本来ならばずっと続いているところを、急遽、今年の2月に一旦終了というふうになったところでもあります。その適正配置の動向によっては、また、本校が存続するか、もしくは、統廃合によりなくなるかというふうになっていたのも、新校建て替えに関しては、その後なのかなと、正直のところ思っていました。ですので、そうは言っても、昭和36年の建築ということで、新校舎建て替えまでのタイムリミットが迫っているということもありましたので、その順序をというところに関しては、この東小学校の跡地利活用を絡めた視野を入れて検討して下さるならば、それに越したことはないなとは思っております。

そして、もう一つのほうなんですけど、もしも旧赤羽台東小学校の土地を売却し、赤羽台西小学校の敷地規模を広げるためにという場合ということなんですけど、この前回の資料の利活用のコンセプトということで、この東小学校をUR都市機構の用地と一体化して整備することで、より有効な土地活用を図ることができるように、土地処分等の方法について協議を進めますという、このコンセプトがあるということを知りましたので、この周辺のUR都市機構の土地との一体化ということで絡めて交換できればなということで、ちょっと意見を申し上げました。実際に先ほども申し上げたように、新校舎建て替えになったときに、子どもたちが仮校舎で過ごすわけになるわけですが、そのときに一番負担を少なくするためには、やはりまず、この資料3の赤羽台西小学校の資料3というふうに書いてあるんですが、この黄色いところがもしURの土地であるならば、ここに校舎を建てた上で、子どもたちには負担なくそこにお引越してできれば一番いいのかなということで、これはちょっと大きな希望なんですけれども、提案させていただきます。

#### ○旧赤羽台東小学校地域代表者

ティーンズ・クリエイティブに関してなんですけど、1枚目の真ん中付近に書かせていただいているんですが、旧東小学校跡地は駅からとても近いです。こちらの小学校は、現在の近隣の赤羽岩淵中学校、稲付中学校、桐ヶ丘中学校それぞれの学区の接点に近いところでもあります。

それから、線路を越えればすぐに、線路を越えたところに赤羽岩淵中学校があるので、まず近隣の学校から、どこから行ってもある程度一定の距離で、もちろん学区を越えなければならぬという点はあるんですが、赤羽地域としては利用しやすい立地じゃないかと考えております。

このティーンズ・クリエイティブですね、アートスクールとミート・ザ・クリエイターズという二つを開催する、講師を呼ぶものがあるんですが、週末と平日の夕方と二つに分けているんですね。つまり、週末は広域的に、それから、平日は多分、地元密着で開催するものを分けているのではないかと考えております。ですので、週末はできる限り広域的に。王子地区とか滝野川地区は、電車に乗ってくれば赤羽まで1本で来れますので、そういうところからも駅から近ければ利用しやすいと思います。現在、豊島地区に「ココキタ」という施設があるんですが、こちらもなかなかおもしろい施設なんですけど、いかんせ

んちよっと行きにくいというところがあるので、この場所、立地はとてもよいなど。つくるに関しても、とてもよいなど感じています。

それから、子ども食堂を兼ねるといところですが、これはやっぱり平日の日々の生活の中ですので、地元根差した活動に近いのかなという観点でお話しさせていただいております。

○委員長

はい。よろしいですか。

○委員

ありがとうございます。

ついでと言っは何ですけれども、ティーンズ・クリエイティブのような施設と、何らかの子ども向けの、あるいは、もう少し広げた児童福祉に関しての、そういうこう、合築のようなものをイメージしたときに、何か子ども向けのとかということで発想をされるようなものって何かありますでしょうか。

○旧赤羽台東小学校地域代表者

子ども向けというのは、10代よりも下をですね。

基本的には、児童館がその辺を今までは網羅していたと思うんですが、ティーンズ・クリエイティブの場合は、子どもたちがいると、きっと、一眼レフとか、とてもじゃないけど置けないと思うんですね。逆に言えば、そういうある一定の10代というところの線を引くことで、ものを大事にある程度こう判断して扱える、任せられるというところでの線引きがあるので、そういう線引きがある施設があるからこそ、逆に下の世代の施設も生きてくるのかなと考えております。

あと、このティーンズ・クリエイティブという施設なんですけど、地下1階から4階までありまして、地下にダンスとか軽音楽とかやる音楽室があって、要は防音用の施設なんですけど。もう一個は4階にあるんですね。4階のワンフロアが、このティーンズ・クリエイティブの施設のフロアなので、ほかのフロアは逆に、ほかの公共施設で利用されるような形になっています。

○委員長

はい。どうもありがとうございます。

予定の時間を大分過ぎているので、ほかになければ、次に移らせていただきたいと思います。よろしいですか、委員の皆さん。

(異議なし)

○委員長

どうも、旧赤羽台東小学校の地域代表者の皆さん、ありがとうございました。

○委員長

それでは、旧滝野川第六小学校の皆さんと意見交換会を行います。

まず、お一人ずつ簡単に自己紹介をお願いしたいと思います。旧滝野川第六小学校地域代表者どうぞ。

○旧滝野川第六小学校地域代表者

皆さんこんばんは。私は、青少年滝野川西地区委員会、実際、自宅があるところは滝野川中央自治会と言います。

○旧滝野川第六小学校地域代表者

谷津自治会です。今日はよろしく申し上げます。

○旧滝野川第六小学校地域代表者

私は、適正配置で一昨年閉校になった滝野川第六小学校の元PTA会長で、現在は、新しくできた滝野川もみじ小学校のPTA会長をやっております。よろしく申し上げます。

○委員長

はい。どうもありがとうございます。

それでは、お一つずつ3分を目安に、ご意見、ご提案等をお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

○旧滝野川第六小学校地域代表者

時間のほうも制限されるということで、私のほうは、簡単に概略だけということにして、あとの二人が細かく説明をさせていただきます。

実際に滝六小学校跡地利用ということで、つい間近までフランス学園が借りるという話がありまして、その5年間ということで何か話がそこで切れてしまったというので、今のところ、我々のほうで使う方法を考えるということで進めておりますので、我々は、滝六の本当に近くから3人出ておりまして、保育園が不足している。待機児童が多いということと、それから、実際に、我々が当初、考えておりました人口の増加、子どもを含めてなんですけども、三、四年前から比べると、北区そのものも3万、4万という人数が増えてきたということで、我々のところも、本当に新しい建屋と申しますか、建物が非常に増えてきて、古いところ、おじいちゃん、おばあちゃんが住んでいるところがなくなって、近隣から移られてきた人が多いということで、子どもさんがたくさんいるということで、今日来ておる地域代表者と一緒にあれしたんですけども、小学校も実際に統廃合して、今のもみじ小学校も満杯の状態です。そのまま今度は中学校が、滝野川紅葉中学校というのはもう、統廃合して数年たちますが、そちらのほうも、もう部屋が満杯の状態に見えるんです。これ以上人口が増えてきて、生徒が入るところがないとなると、今度、新規に建屋をつくるというそのスペースもございません。ですから、そうなったときに、滝六小学校に部屋が、保育園で2教室ぐらい使っているんですけど、あと残っているところが使えればということで、一つの方向と申しますか、本当に学童たちに、少し余

裕のできるやり方で進めていこうという話で、うちの近所の町会は、話がまとまっており  
ます。いろんな約束事と申しますか、あれが昔からと変わってきているというところもあ  
るんですけど、まず、人数が入れない学校をどうするかということで、今まで時間をかけ  
て検討してまいりましたので、後ほど数字的なものを皆さんにご説明させていただきます  
ので、よろしく願いいたします。

以上です。

#### ○旧滝野川第六小学校地域代表者

今日は、私のほうから4点あるんですけども、2分、3分じゃとても終わるような状  
態じゃないものですから、4番目は別の地域代表者をお願いすることにして、第1番目、  
今、ゼロ歳から2歳までの保育園があるわけです、今の小学校に。それで、今度、あそこ  
を保育園にひとつ、お願いしようと思って、認可保育園をひとつお願いしたいと思ってい  
るんですけども、いかがなものでしょうかね。

それで、残念ながら、ここ滝野川、滝西というのは、待機児童が今年で50人もいるん  
ですよ。赤羽さんとか、そういうところは一切ないわけですよ。何で滝西だけこんなに  
多いのかなど。保育士さんが少ないのかどうかわかりませんが、もう少し、待機の  
ない保育園を、ひとつお願いしたいと思っています。

これ、全部読むわけにはいきませんが、この最後のページに待機児童のあれがある  
んですけど、滝西だけです、こんな多いのは。ですから、これ、認可の保育園を一つ、設  
置してもらえればと希望します。

それと、第2番目で、今度は、その学校を利用して、我々も、私も幾ばくもない人間で  
ございますけれども、やはり、北区では、長生きするなら北区だとか言っていますけれど  
も、長生きしてもらったら保険料ばかり上がって、介護の金ばかり使うよりかは、元気で  
いてもらいたいと、そういう意味で、我々の町会では、毎週火曜日は、体操しています。  
町会、大体25人ぐらい集まってやっています。それで、今度、それにプラス支え合い運  
動、支え合いのクラブをつくりまして、今、220名ばかりいますけれども、それを15  
名で各家庭を回って歩いています。それで、2カ月に1回はサロンを開きたいとか希望し  
ているんですけども、何しろ町会はそんなに広いものじゃありませんので、今のこの旧  
第六を利用してもらったらどうかなど。

それで、長生きしてもらえんならば、あくまでも運動してもらわないといけないので、  
やはり、雨の日もあれば風の日もあるでしょう。そういうときには、広い学童の塀があり  
ますので、そこを利用してもらって話させてもらってもいいかなとは思っているんです  
けれども、いかがなものかと思えます。

それで、できれば老人を大事にさせていただくんでしたら、老人の施設でもつくってもら  
っても、我々、結構なことだと思っているんですけども、その点は一応、考えてもらい  
たいと思っています。

それで、3番目は、2番目とほとんど同じようなものですが、ちょっと、読んで  
もらえればわかるんですけども、我々、25人が毎週、うちの町会でやっていますけれ  
ども、やはり、まだ多くなる可能性があるわけです。それで、学校を借りたいかなど、そ  
ういう希望でいるんですけども、いかがなものかと思えます。

もう2分以上たつたんですけれども、4番目に関しては、別の地域代表者のほうから詳しく説明してもらいたいと思います。要望、お願いします。

○旧滝野川第六小学校地域代表者

すみません。よろしくお願いいいたします。

まず、3分という時間の中でしたので、伝え切れないものがありますので、資料をつくらせていただきました。後でゆっくり見ていただきたいんですが。

まず、最初には、既に区のほうから配られている資料8のところの最後のページを見ていただきたいんですが、ここにあるように、人口推計は増加傾向にある。さらに子育て世代のますますの転入を目指している中で、実は、置き去りになっている大きな問題が一つあるということを皆様にお伝えしたいと思います。それは、中学校の適正配置後の問題が、私たちの地域にはあります。そして、私がつくった資料は、旧滝六小の目の前にある滝野川紅葉中学校に関する資料になります。

この中学校は、適正配置にて二つの中学校が一つになってできた新しい新校ですが、新校を建設する、新築する際の計画では、今後、児童・生徒は減る方向という推計値のもと、3クラスの規模で校舎は新築されました。しかし、資料の右上のほうの数字なんですが、ごらんいただくとわかるように、ある意味、喜ばしい話なのですが、生徒は増えています。生徒は、増えているというのは誤差のレベルではなく、300人程度と予想していたものが、450人という形で5割も人が増えていると。これは想定外の事態が起こっていると言ってよいと思います。

開校当初、3クラスでおさまってはいましたが、その後は常に手狭な環境であります。きれいな新築校舎ですので、当時は見えにくかった問題ですが、少人数教室としてデザインをされている、間仕切りができるような部屋、実際、窓もないんですが、そのような部屋を普通教室に転用しなければ、普通教室が足りないということになっています。ただし、中学校は、いろいろな勉強もレベルがありますので、少人数学習というのが、もはや必須なんですが、その少人数教室が、もともと予定していた場所が普通教室にとられてしまう関係で、なくなってしまっていると。一昨年ときは、5クラスあったときには、生徒会室とかまで使って少人数教室をやっていたりというような形で、先生方は、毎年毎年、大変な思いをされております。教室だけではなく校庭も同じで、必ずしも広い校庭ではないんですが、その中で、先生方は、やりくりをしながら、朝練の練習を使って、広い全面を使える時間を何とかつくり上げていると。先生方の労働環境まで考えると、朝練というのは、できれば避けてもらいたいところではあるんですが、どうしても狭い運動場をたくさん部の部活で一生懸命、交替しながら使っているという毎日があります。

今回の滝六小の跡地の利用を考える上で、滝野川紅葉中学校の教育環境の改善を考えていただくことが、何より先決ではないかというふうに考えています。適正配置という名のもとに小学校は整理され、中学校も整理され、そして、未就学児の対策と一見進んでいるようには見えるんですが、果たしてそうでしょうか。こちらの区からの資料にありますように、年少人口だけでも、今後10年間で現在の7,300人から9,500人に増えていくという資料をいただきました。小学生だけで今後10年間で1,200人も増える。中学生は450人も増えるという資料を今回お配りされています。これは残念ながら、私

どもが滝六小学校と紅葉小学校が統合する際には、3年ぐらい前から話し合いがあったんですが、そのころには、全く想定をしていなかった。その当時の適正配置の委員会の中では、児童が減る方向ですので、統合やむなしという形で話し合いを進めていたわけなんです。今回いただいた資料では、10年間で増えていくというような形で資料をいただいています。

滝野川紅葉中学校を設計した10年前とは、真逆の増加という将来が予測されていて、それは実際、現実問題です。今回の利活用委員会は、当時わからなかったことを是正する最後のチャンスだと思っておりますので、どうか、有効な使い方をお示しいただけたらと思っています。

1回目の議事録を拝見したんですが、そこの中には、フランス学園が借りたいという話を申し出ていらっしゃるということなんですが、実際、フランス学園が借りても、そういった中学校の手狭な問題と、地域の問題は解決しないのかなと思っています。フランス学園の教育環境を整えるということも、全体的には大切かと思うんですが、特に、旧滝六小の跡地を有効活用することだけに立つならば、もっと区民全体で利益を受けられる方針が出てくるべきなのかなというふうに思っています。

フランス学園の敷地の中に増築をして、その間の仮校舎に旧滝六小を使いたいのかなというふうに、私は、そもそも5年間の短期で借りるという契約をされたものの、その真意はそういうものだと思っておりました。フランス学園の敷地の中に校舎を増築し、その間の仮校舎を提供するという形だけでは不十分なのではないでしょうか。また、増築によって狭くなる部分も、近隣としてうまく貸し借りをするような柔軟な対応をすることはできると思っています。

参考までに上空からの写真なんですが、フランス学園には、テニスコートが3面、しっかりとしたものがあるんですね。その広さというのは、滝六小の運動場とほとんど同じです。ですから、例えばの話ですが、フランス学園のところに、テニスコートの敷地に校舎を建てたとして、それによってテニスコートが1個減って、2個減ったとしても、そこは滝六小の校庭を貸してあげるという形で、うまく共存できるのではないのでしょうか。

最後になりますが、旧滝六小の跡地は、今後10年、20年に必ず起こる、年少人口の増加に向けて有効に使うことを考慮していただきたい。この地区で2割も子どもが増えるという資料をもとに、この委員会は立ち上がっておりますので、責任のある未来に向ける方針をぜひとも期待したいと思います。

どうもありがとうございました。

#### ○委員長

はい。どうもありがとうございました。

では、委員との意見交換を行いたいと思います。

委員の皆さん、いかがですか。

はい。委員。

#### ○委員

どうも皆様、ご苦労さまでございます。先ほど委員の皆様も、旧滝六小学校を見て回っ

てまいりました。先ほど、赤羽台東のほうの件につきまして、よく防災の話が随分出てきましたけど、この旧滝六小学校の件に関しては、一言も出てこないことが一つと、それから、私たち、民生委員でございますけど、主任児童委員さんから、子どもの遊び場が少なくなった、それから、あそこの宮元保育園ができる前に、あそこで子どもたちが、ボール遊びができたんだけど、それができなくなった。それはもう、私の耳に随分入ってきて、それで、その二つについてちょっと、地域代表者がどういう意見を持たれているかお聞きしたいと思っているんですが。

○旧滝野川第六小学校地域代表者

その点につきましては、あと数年後に、前の国税局の跡地、今壊してしまして、あそこは1万平米ちょうどあるんですけども、半分の5,000平米は、シルバーピア144室、144床というんですかね。残りの半分5,000平米は、私どもの町会の中になるんですけども、公園ができるという約束になっておりまして、どっちかという、逃げ場をつくっているのではないかなと思いますけども。5,000平米の公園なんていうのは、我々の回りにもないですよ。ですから、いざ何か震災が起きたときに王子総合高校と並んで、あの脇にも逃げ場ができるということで、多少は安心しておるんですけども、ほかの町会さんにはないところができてくるということなんですね。ですから、その点では余り、よかったかなと思っているんですけども。この2点というのは、公園とシルバーピアができるといったのは、もう速やかに何か決まったような気がします。北区さんのほうでも、余り問題がなかったんじゃないかなと思うんですけど。

以上です。

○委員

わかりました。その点、私どもも、旧官舎の跡を、区営のシルバーピアができることと、それから、公園が整備予定ということ、今日、聞きましたので、わかっておりますが、ちょっと、入りこんでいるところでございますので、どうかなと思ってお聞きした次第でございます。

○委員長

はい。よろしいでしょうか。

ほかに。ご質問、ご意見、どうですか、委員の皆さん。

はい、委員。

○委員

さまざまご意見ありがとうございます。2点ほど教えていただきたいんですが、1点、地域代表者からあったお話で、高齢者施設のお話がありましたが、その中で一つは、本当に高齢者の居場所というか、さくら体操のようなお話から、特別養護老人ホームとなると、規模等々違ってきているんですが、地元としては、本当にどういったものが必要なのかというのが1点と、あと、もう一点として、確かにこの地域、子どもさんが増えている中で、地域代表者がおっしゃっているのは、ごもっともかなと思います。その中で、いろいろな

ものを共用する方法もあると思いますという言い方をされているんですけど、共用していく中で、中学校の教室の問題とか、具体的に、どういうふうに解決していけるイメージをお持ちになっていたら、教えていただければと思います。

○旧滝野川第六小学校地域代表者

特別養護老人ホームというよりか、老人が、いつでも集まって、いろいろ運動なり、頭の体操でもできるようなところを望んでいるわけです。それで、私の町会でも、一応、準備はしてあります。将棋から、マージャンから、碁から、全部できるようにはしてあります。それでも、これだけ老人が、一番北区は多いんですから、どれだけ増えるかわかりません。私みたいに長生きするのがいっぱいいますから。やはり、くつろぐところ、町会よりか広いところで、くつろぐところを一つ欲しいなと思っています。

○旧滝野川第六小学校地域代表者

私は、まず滝六小には行かれたということなんですが、滝野川紅葉中から滝六小までの距離というのは、その壁からその壁ぐらいの距離なんですね。間に細い道1本あるだけです。ですので、適正配置のときには、小中一貫校で一つの場所で大きいものをつくっていただけないかというようなことまで含めて、提案をさせてはいただいたんですが、実際、学校の先生方に聞いても、歩いてすぐのところ、校庭側から行けば本当に目の前ですので、車も1時間に1本通るかどうかというような道ですので、まず、じゃあ具体的にどういった形で共有と言うかという、もう単純に今ある校舎をそのまま使うというようなことぐらいでしょうか。

実際に、つばみ園というものが小学校と一緒に共用をして使っていました。校舎の西側になるのか、一辺のところを、2教室分のフロアを3教室みたいな形で、保育園で使っていたんですが、当時は私ども、小学生の子どもたちが、そういう小さい未就学児をけがさせてしまったりとかすることはないのかということで、小学校と保育園の共存という、中に同じ時間にいることを物すごい心配をしたんですが、実際はうまいこと、学校の時間は小学校優先でやっていただけましたので、それは中学校と活用を一緒にしたとしても、全く問題ないのかなというふうに思っています。

さらに、地域代表者が言うような、老人と保育園、未就学の子どもたちと一緒になるようなことは、逆に、高齢者の方にもメンタルの面でいいという話も聞いていますので、いろんな形で、いろんな世代の方が交流できる場が、特に建物的には全く何も変わらず、今のままで十分使えるのかなというふうに思っています。

○委員長

はい。よろしいですか。

ほかに。はい、委員。

○委員

地域代表者にちょっと、お伺いしたんですが、今までの状況の中で、旧滝六小の活用方法として求めたいことということで五つほど出ておるんですが、この中で、地域代表者が

言われている部分での老人介護の部分、保育園の待機児童の部分というのがあると思うんですが、あとは、地域代表者が言われているのは、滝野川紅葉中学校の、要するに足りない校舎ですとか、例えば部活に使うというような部分があるということでお話しなさっているんですが、この中で、ちょっと失礼なんですけど、優先順位というか、どれが一番重要なポイントだと考えていらっしゃるのでしょうか。

○旧滝野川第六小学校地域代表者

そうですね。一番重要、どれも重要なんですけれども、まず、既にある保育園を拡充してもいいのではないかなというふうに思っています。1階フロアを使っていた、運用を始めた理由というのは、多分、ベビーカーとかでも含めて入りやすいということだと思うんですが、その1階部分は、まだまだ部屋があります。ですので、保育園の規模としては、1階だけ使うとしても、あと2倍ぐらいの広さのものができると思っていますので、私立保育園とかまで含めた誘致をされてもいいのかなというふうに思っています。

学校の先生に言わせると、ひどく崖になっているところのくぼ地みたいなグラウンドではあるんですが、子どもたちをそこの中で遊ばせていく分には、道路への飛び出しとかも全く考えないで、敷地の中でしっかり見守れるということを知っていますので、小さな子どもたちは、もっともっと入れられる、入ってもらえるのではないかなというふうに思っています。優先順位は、まず、既にありますので、もっともっと使えばいいのかなと。

中学生に関しては、体力もありますし、3階建ての校舎なので、3階部分を使ったりとか、あと、実際にある、既にある滝野川紅葉中学校の部屋を使って、その分、余り使わないものに関して、遠くの道を挟んだところで使うようなやりくりができるのかなというふうに思っています。

広域避難場所に関しても、一応書かせていただいたんですが、旧滝六小は、既に統合前は避難所になっていました。それが、当然、小学校としては統合されて別の場所に移ったんですが、地元としては、避難所というのは、一緒に統合になっているんでしょうかというような率直な疑問があります。なので、何かがあった際には、引き続き旧滝六小が避難所として使えるものだと思いますし、ただ、一応書かせていただいたんですが、フランス学園が、仮に借りてしまうと、私には、あそこの場所が区民と一緒に共用するような、逆に、子どもが自由に出入りできるのかどうかというのは、少々疑問なところがありますので、そういう意味で言うと、逆のアプローチになるんですが、私どもでフランス学園様にここの部分を借りませんかというような提案のほうが、広く全体のニーズに応えるような使い道になるのかなというふうに考えています。

○委員

わかりました。どうもありがとうございました。

○委員長

はい。どうも。

ほかに、いかがでしょうか。はい、委員。

## ○委員

地元の代表のお三方にお伺いしたいと思いますが、三つあるんですが、一つは、フランス学園の地元への貢献度というか、協力といいますか、こういったような事例があるかどうかというのを、一つお伺いしたいと思います。

二つ目は、その隣の東京ガス。3. 11以降ですね、電気よりもガスのほうにという、かなり大々的に東京ガスがPRされているんですけど、その東京ガスの社会貢献ということで、地域の中でどのようにアピールされているのか。また、皆さんは、住民感情というのは、どのように受けとめておられるのかというのを2点目にお伺いしたいと思います。

3点目は、やはり、休日の歯科診療、診療所ぐらいいかないということなんですが、医療機関、医療資源の現状ですね。この辺の状況、この3点をちょっと、お伺いしたいと思います。

## ○旧滝野川第六小学校地域代表者

お答えします。フランス学園さんとは、あそこが四谷のほうから引っ越してきて、当初1, 300名、幼稚園から高校生まで1, 300名ぐらいが来ると言ったんですけど、その後、すぐに地震があったんですね。大きい地震がありましたら、急に人数が減りまして、八百何十人までというか、ほかの生徒は、国へ帰っちゃったらしいんですね、地震が恐くて。そういうことで、建物を少し改造して校舎を建て直したという感じで、何とか、ぎりぎり入っていたというところなんですけども、ここのところへ来て、また人数が増えてきているんですね。もう入り切れないという現状になったために、滝六小学校を貸してくれないかという話になったんだと思うんですけど。ただ、その時期、そのときで、多少あれが、人数の差異が出たとしても、それではもう要らないよと返されても困るところはあるし、それならやっぱり地元、さっき地域代表者が言ったように、小さい子が増えているし、満足に教室が、もう本当にぎりぎりかな、小学校も本当にいっぱいいっぱいやっているような感じですね。僕ら子どものとき、もっとぎゅうぎゅうでやっていたんですけども、60名からの生徒が部屋の中に入って、後ろ通り道もないようなところでやっていたということから比べれば、まだいいんですけども、やはり、これから増えて、入れないという現状が出てきたときに、どういうふうにするかという問題が出てくるんで、それが一番我々が懸念している材料なんです。

それと、東京ガスのほうなんですけども、我々は、地元でいろいろ回ってくることもあるし、サービスのなものというのは、まずないですね。区民まつりや何かにも来ていただいて、お手伝いをしてくれるというところでしょうか。サービス心はゼロですね。もうちょっと、我々に気を使っただいてもいいんじゃないかなというところもある。でも、結構、我々、区民まつりというのは10月の初めにやるんですけども、そのときには必ず顔を出してくれて、いろんな、東京ガスがサービスするものって余りないんでしょうかね。東京電力さんも、支払い等については、いろいろな方面に散らばってきたということで、東京ガスもいろいろやっているみたいですけども、今度、所長に会ったときはサービスするように言っておきます。

それと、最後ですね、医療関係ですね。うちの周りにあるというのは、本当に一つ大きいのは、滝野川病院というのが一つぽんとあって、あとは小さいまちの診療所、診療所と

言ったら怒られちゃう、もうちょっとクラスの大きいやつが何軒かあるんですけども、それぞれやっぱり、皆さん、10分ぐらい歩いて、自分の好みのお医者さんに通っている人が多いと思います。大きい病院というのは、やっぱりないんですよね。帝京さんまで行くとか、そういう感じですから、救急車がやっぱり、あれが多いかもしれないですね。救急車のほうが1台、滝野川区域に増えたものですから、何かひっきりなしに鳴っているような気がするんですけどね。鳴らないほうがいいと思うんですけども。病人が出ないように。

それと、ご多分に漏れず、滝野川も老人の患者さんが非常に増えているんですよ。80歳、90歳という率が少しずつ上がってきているという感じですかね。それだけお年寄りの方が長生きしているということなんですけども、もうちょっと、我々も、町会で目を配っていかなきゃならないかなというところがあります。隣組で一生懸命見ている方は見ているんですよ。病人がいないかどうかというところで、気にはしておりますので、皆さん喜んでおられますので、安心はしております。

以上です。

○委員長

ほかの方。

○委員

もう一ついいですか。

○委員長

では、追加で。

○委員

申しわけないです。すみません。私ばかりしゃべっちゃいけないんですけど。

先ほど現地を視察させていただいたんですが、いわゆる木密、老朽化した木造住宅の密集地が結構ありまして、路地にもならないような、当然、消防車も入れないような状況があるんですけど、地元の町会・自治会で自主防災組織への取り組みというのはどんなものでしょうか。一言で結構です。

○旧滝野川第六小学校地域代表者

私どもは、必ず、この支え合いのときに空き家を必ず北区のほうに報告しています。多いんです。ひとり暮らしと空き家というのが、とても多いわけですが。ただ、どこを見られたかわからないんですけど、行きどまりというのは余りないと思うんですけども、やはり今は、スタンドパイプといいまして、ポンプを各自治会は持っています。うちも、もちろんありますけれども、その排水するところは、皆、個々に印がありまして、家に報告してあります。ですから、消防車が入れなくても、そのパイプが使えるようには設置されていると思います。

○委員長

よろしいですか。

ほかの委員から、いいがでしょうか。委員、よろしいですか。

それでは、予定の時間も来ていますので、以上で、意見交換を終了させていただきたいと思えます。旧滝野川第六小学校の地域代表者の皆さん、ありがとうございました。

○委員長

この後、本日のまとめに入ります。着席される方は着席して、退室される方は、どうぞ退室してください。

○委員長

それでは、再開します。

議題の2、本日のまとめということで、これは前回と同様に、本日の視察や意見交換を踏まえて、委員から一人ずつ2分程度で発言をお願いします。

前回と同じ順番で回します。まず、委員からお願いします。

○委員

今日は二つの小学校跡地の問題をどうするかということで、現地視察と地元の方のご意見を伺いました。共通することでは、キーワード的に言いますと、平常時の対応と、災害時への対応と、この二つでもって安全安心な新しいコミュニティをつくろうということだと思えます。ポイントは、やっぱり防災、それから減災ですね。防災と減災と福祉、文化、教育、この五つがキーワードかなと思っております。これが共通するもので、最初の旧赤羽台東小学校においては、やはり地元の商店会の振興ですね、活性化。こういったところもぜひ、お考えいただくと、区のほうも、住民の皆さんも、いいのかなと。

それから、災害時の避難場所のことなんですけど、公園の活用ということで。これ、都市計画とかかわります。また、地域防災計画にもかかわりますけども、できれば防災公園という位置づけで、避難場所としての指定だけでなく、防災備蓄倉庫、あるいは、一番実は困るのは、トイレの問題なんです。簡易トイレの問題。私が住んでいる都下では、例えば小金井公園などでは、1,000人から2,000人の簡易トイレができる。あるいは武蔵野市内で言いますと、一小学校で1,000人単位の簡易トイレが用意されています。そういうような、学校も、公園も、防災、減災ということでの対応が大事なのかなと思えます。

それから、地域の資源。例えば、東洋大学ライフデザイン学部が進出するということになっておりますけども、こういった大学、あるいは高校など、あるいは短期大学などとの連携によって、彼らの持っている知見を地域に活用してもらうように、区あるいは住民も連携するということが大事なのかなと思えます。

それから、特に、旧赤羽台東小学校ですと、皆さんお住まいの地区だけじゃなくて、その隣の岩淵・赤羽地区ですね。実は海拔ゼロメートルぐらいで、荒川の氾濫もあり得ます。カスリーン台風も、かつて昭和20年代にありました。そういう意味では、赤羽台の皆さん、あるいは、こういったさまざまな施設ですね。これから整備される施設に、皆さん方

だけじゃなくて、岩淵・赤羽の人たちも高台に避難できるぐらいの、これ、災害時の受援計画、受援、お互いに助け合う、受援計画というんですけど、そういったところも視野に入れておかれると、キャパの問題はあるんですけど、よろしいんじゃないかな。同じ北区民としてですね、よろしいんじゃないかと思います。

それから、旧滝野川第六小については、その間の広域災害ということでお話し申し上げますと、坂になっている板橋区は、実は、私もかつて板橋区の地域福祉計画にかかわったことがあるんですが、23区の中で非常に、福祉医療の資源は恵まれています。もう今から20年から30年前に、23区では、あるいは全国的にも先駆的な保健・医療・福祉の連携をしております。それは、地域福祉計画で、地域福祉につなげているんですね。そういう意味では、なかなか、他の区との連携は難しいかもしれませんが、板橋区との連携ということも、滝六の場合は、考えてもよろしいんじゃないかなと思います。

それから、少子化対策ということを考えて、外国人の労働者をどう確保するかということも、地場産業の活性化には非常に重要になってきますので、フランス学園の保護者会があるかと思うんですが、そういったところとも連携するように、これは学園の考え方もあるんですけど、地元の皆さんから、やはり区のほうからも、いかがでしょうかということも打診をするということも大事なのかなと。いずれにしても、滝六の場合は、特養がないんですよ、特養が。そういう意味では、区のシルバーピア、計画はあるわけですけども、これはもう、私、詳細は知りません、知りませんので勝手なことを言っているんですけど、例えば、特養とシルバーピアを合築するとか、何かこう、一つこう、工夫を一つ二つ、こう、考えていくことも大事なのかなと。限られた用地で、そんな用地があるかどうかということもあるし、建築費も23区ですから、非常に高額になるんですけども、そういった柔軟な対応もいかがなのかなという感じはしました。

はい。失礼しました。

#### ○委員長

どうもありがとうございました。

それでは、続いて委員、お願いします。

#### ○委員

皆さんの意見は、よく承りました。ただ問題は、跡地をどういう形に使ったら一番有効活用になるのか、区のためになるのかということを考える必要があるんじゃないかと。今までどおり、皆さんのご要望の地元の保育関係がいいとか、学校、ところが、区だって、学校ごと建て替えをすれば金が要ると。そうすると、金も、今度どこかで工面しなくちゃならないというようなことが起こってくると、それなりのやっぱり、対応をしていかなくちゃならないんじゃないかなと思うんです。

それと、20億、30億円と云う学校の跡地の利用、活用を考える前提として、不動産として、北区の位置と現状と将来を見ておく必要があるんじゃないかなと思うんです。戦後の日本というのは、東京一極集中の政策がずっと一貫して70年間、とられてきたんですよ。そのために、鉄道と、もう道路も、そのようにつくられてきて、そして70年たって、現在はこの一極集中が完成段階になってきているんです。それで、地価水準でも、

最高は東京駅前の坪当たり2億円になって、過疎地は、坪当たり1,000円という差が生じてしまっているんです。そして、その東京の状態を見ると、都心から東西に、東京は東西に長いものですから東西に広がり、その後、新宿が開発されて、それから東京湾の埋め立てとか進みまして、オリンピックができるような状態になったわけですけども。それから、この南の玄関口が数年前から、品川が開発が進みまして、新幹線もとまって様相が一変してきているんですよ。そして、どこが停滞しているかというところ、浅草と、上野と、王子と、赤羽が一番停滞しているんです。ところが浅草は、5年ぐらい前からスカイツリーができたり、外国人が来たりして、だんだんよくなってきたと。

それから、上野は北の玄関口としての機能がだんだんなくなっちゃって、相変わらず大したことはない。そして荒川も、日暮里駅前が整備されて、荒川が人気が多少出てきたと。それと、北区はどうなんだというところ、北の玄関口として、赤羽に今、不動産業界初め全てが目をむいているような状態なんです。北区と荒川区は、都心に近く便利で環境もよくなったために、マンションの建設が非常に盛んになって、中古マンションの価格も、このところどんどん上がっています。今年の地価公示でも、北区と荒川区が23区の中では非常に上位となってきたんです。そして、地価の上昇というのは、6~7%年間あるようになってきて、マンションも値上がりして、東京の平均よりも倍ぐらいな値段になってきたんです。そうして、皆さんが期待したり、予測したりしている新幹線でも、赤羽にとまるようにでもなると、北区の土地等用途価格というのが飛躍的に上がるんじゃないかなと思っています。こういう、北区の状態というのを踏まえて、有効活用を考えていったほうが、私は将来のためにいいんじゃないかと。そして、やっぱり、北区は、どう見ても道路が狭いんです。道路を少し整備して広くしないといけないので、そういう代替地に利用するとか、そういったいろんなことの用途が考えられるんです。だから、皆さんのご意見も非常に承ったんですけども、要は、最終的には、これを金にするか、金にしないで現在のままの利用で済ませるかということなんですけど、北区の将来を見たときには、やはり、ある程度の犠牲を払って再開発していったほうがいいんじゃないかなと思ったわけです。これは、まことに一般論なんですけれども、そんな感じがいたします。

以上です。

#### ○委員長

はい。どうもありがとうございます。

じゃあ、委員、お願いします。

#### ○委員

今日は、二つの学校を見学させていただきました。旧赤羽台東小学校でございますが、高台に建っております、大変、眺めもいいし、南側だし、すばらしいなと思いましたが、しかし難点は、やはり、坂の上でございますので、皆さんと一緒に坂を下っていきまして、下から見上げましたら、本当にこんな高いところに上がるのは無理じゃないかと思いましたが、先ほどの赤羽台東小学校の代表の方が、売却も一つの案かなということをおっしゃったので、あそこは駅に近いし、高価な売却ができるのではないかなとも思っております。

それから、滝野川第六小学校のほうですが、地域代表者のほうから言われまして、私も今日区から聞かしまして、旧国の官舎のほうで、公園と、それからシルバーピアができるということ、大変うれしく感じたところでございますけれども、この委員の皆様、やはり、第六小学校の3階に上がってみまして、近隣の屋根がもう、手で届きそうなところに屋根があったりいたしましたので、ちょっと、災害のことが、皆さん心配になっておりました。以上でございます。

#### ○委員長

はい。どうもありがとうございます。  
それでは、委員、お願いします。

#### ○委員

意見が重複してしまいますので、簡潔に述べさせていただきます。

本日、旧赤羽台東小学校と、旧滝野川第六小学校に伺ってまいりました、両方とも立地としては崖が絡んでいる土地であるということが、一つ印象に残りました。それで、両校とも、やはり、一番要望されている内容としては、保育施設をつくるということと、老人の施設、また、防災の拠点、防災倉庫を含めた部分でというようなことの意味というものが、両方の学校で出てまいりました。共通することだと思います。

この中で、旧赤羽台東小学校に関しましては、老人の施設というようなのがありましたけれども、個人的にちょっと感じたことは、少し、高台にあるので、たまたま、坂の上に、山の上に住んでいる方はよろしいかもしれませんが、ほかの方が老人のいろいろ施設をつくったときに、ああ、来やすいのかな、どうなのかなというのが、ちょっと気になりました。

あと、もう一つ、滝六小学校さんのほうの意見で、もしかしたらフランス学園の貸し出しを望んでおられるのかなと思ったんですが、貸し出しは、余りよしとしないということがわかりましたので、現場も見ましたし、皆さんのご意見も伺いましたので、自分なりに考えをまとめていきたいと思っております。

以上です。

#### ○委員長

はい。ありがとうございます。  
次に、委員、お願いします。

#### ○委員

今日は、赤羽台東小学校と、滝六小学校、現地を見させていただきまして、また、地域の方々、いろいろなご要望等、おっしゃっていただいたんですけども、私としては、ちょっと、視点が違うのかなと思っております。例えば、赤羽台東小学校の跡地についてでございますが、周りのUR、または都営住宅、今、ほとんど新築ででき上がっていますよね。そうすると、ほとんどが耐震化十分な建物になっているのではないかなと思っております。それで、その中で、せめて西小学校の建て替えのときに、仮校舎とし

て東小学校を使いたいという、そういう要望ならば、すごくいい考えの方々だなと思ったわけでございます。

それと、旧滝六小学校の場合は、本当に木密地域というか、東京都の総合危険順位で5段階中の4ということでございます。先ほど、地域代表者のほうから、5,000平米の公園ができる。えっと私は思っちゃったんですね。滝六小学校も、平米数は5,000ちょっとなんです、建物から何から。やはり、そのような場所が2カ所あっても、あのような木密で坂道があって、道が細い地域にとっては、そういう避難所的な広場が必要ではないかなと思いますけれども、私は、そのような考えを持っておったわけですが、これから委員の皆様といろいろご意見を伺いながら、後々の結果に進めていきたいと思っております。

以上でございます。

#### ○委員長

はい。ありがとうございました。

それでは、委員、お願いします。

#### ○副委員長

私も、地域の方々のお話を聞いて、両地域ともに共通する課題があると感じました。教育の面から申し上げると、滝六のPTAの方がおっしゃっていたように、以前の計画と今の状況は明らかに違っていて、子どもたちが増えていくという状況の中で、跡地利用の検討をしているという、なかなか皮肉な状況になっているということを、今日、痛感いたしました。

子どもたちが増えていくという前提で、保育所とか、あるいは小学校とか、中学校の整備をきちんと進めていくというのは区の責任ですので、それがやはり第一に来たほうがいいと思います。ただ、高齢者の方々のニーズとか、あるいは、防災とかという観点もありますので、そうしたものをどのように組み合わせていくかが課題になると感じました。

以上です。

#### ○委員長

はい。ありがとうございます。

じゃあ、続いて委員のほうから。

#### ○委員

今日、地域の代表者の皆さんの意見をいただきましてありがとうございました。いずれも、地域に密着した率直なご意見をいただいたと思っております。土地利用を見ますと、赤羽台東については、中高層団地、住宅団地の中の学校。そして、滝六については、低層住宅地の中の学校であるという、土地利用の面からすると非常に対照的なところではあるとは思っております。

防災の関係では、帰宅困難者用の施設まで気を使っていたところもあったり、高齢者については、今、URが進めている医療と介護の連携拠点といったものも視野に入

れたお話をいただきました。

それから、校舎の関係については、ご案内のとおり、今回の適正配置の関係で中断をしています。これは、URが今、資料にもお示しをいただきましたが、黄色で示した部分については、まだ土地利用の方向性が決まっていないといったお話をいただいている中で、人口がどうなるんだろう、子どもたちはどうなるんだろうかといったところに、まだ、未知のところがあるといったような内容でございました。また、新たな用途といいますか、ティーンズ・クリエイティブ、おもしろい発想もいただいたところです。

また、滝六小のほうでは、滝野川紅葉中として立派な学校をつくったわけだけでも、生徒数の推計が若干ずれていたんじゃないかとか、また、滝野川紅葉中の場合は、建て替えにより、小学校から中学校に上がる際、公立に行く率が増えているなどの面も重なって、このような状況になっている。何とかそれを改善したいとのことでした。

さらには、保育園の拡充、避難場所の確保とか、いろいろ意見をいただきました。いずれも、地域の実情として述べていただいているわけで、非常に貴重な意見であると考えております。これから北区全体、あるいは、各施策の充実度等々検討していく中で、この二つの小学校の跡地について検討できればと考えてございます。

以上です。

#### ○委員長

はい。ありがとうございます。

それでは、委員、お願いします。

#### ○委員

今日、地域の皆さんのご意見もいただきまして、ありがとうございます。赤台東小も、滝六小も、全く置かれている環境は違うんだけど、空間としては、できるだけそのままにしておきたいなというふうに個人的には思いました。一つは、赤台東小のほうは、指定が変わってなければ、避難場所の中ということで、きちっとした、かたい建物と一定の空間があったほうがよいのではないかということのを改めて思ったのと、滝六小のほうは、やはり、そういった木造住宅密集地の中ということで、そちらのほうも一定の空間が確保できれば、一番よいのではないかというふうに思いました。

あと、学校施設の規模などについては、児童生徒数、人口推計も含めてですけれども、どのようになっていくかということについて、もう少し、説明できるようなものがあれば、皆さんにきちっとそういった状況のご説明もし、今の施設で足りるか足りないかという端的にはそういうような部分も含めて説明ができると、その後の議論にもつなげられるのかなというふうには思いました。

滝野川西地区については、ゼロから5歳児の認可保育所について、お母さんの話ということでご紹介をいただいていますけれども、そういったものについては、やはり必要であろうというものは、改めて感じたところです。

以上です。

## ○委員長

はい。どうもありがとうございます。  
それでは、委員、お願いします。

## ○委員

本日、地域の方々にさまざまなご意見いただき、本当にありがとうございました。

私の感じたことなんですけど、まず赤羽台東小学校跡地について、一つ、10代の子ども居場所というお話が出ていたと思います。自分自身、10代の子に限られなくてもいいのかなと思いつつ、あその場所は、先ほどから話が出ているように、崖地の上にある一方、駅から近いということで、多少行きづらい、駅から近いけど行きづらい中で、子どもだったら特に影響がないのかなと思ったり、また、周辺に大学のある環境というのは、そういった中で子どもの居場所ができれば、それは区としてもすごくいいのかなと思いつつ、話を聞かせていただきました。

その一方、当然、災害時の対応にも考慮した施設、そういったものがあの地域にできることというのは、非常に素晴らしいことだと思います。一方で、赤羽台西小学校の改築、当然ながら区として重要な課題だと思っています。ただ、ここに関して自分が思っているのは、どの時期に改築するのかとか、どういった手法でどこへ仮移転して改築するのかというのは、まだ教育委員会と十分な話し合いができていない段階で、本当に慎重に検討しなくてはならない問題かなと思っています。

また、URの建設戸数というのも非常に大事だと思いますので、できるだけ早い時点で最新の数字をつかんでいく努力というのも大事かなというふうに聞いておりました。

それから、滝六小学校については、行政で働いている者として、この地域に保育園の待機児童が非常に多いというのは痛感しています。地域の方からお話しいただいて、一番の課題だということもございましたように、保育所に関しては、何がしかできればなというのが、正直な自分の感想ではあります。そういった中で、高齢者と触れ合うような部分があれば、地域の声を非常に踏まえた、いいものを考えられるのかなとも思いました。

ただ一方で、フランス国際学園に関しては、当然、地域の方々の思いとか、地域の方と非常にうまくやっていたりしている一方で、北区としてもすごく重要な資源だと思っています。国際化が進んでいく中で、北区としてフランス国際学園が重要な資源だということ認識しているところがございます。

あと一点思っているのは、やはり子どもの数、これから10年、15年の間増えて、それから減少してくるというのが、北区の傾向になると思っている中で、そこにどう対応していくかというのは、それぞれの地域にもありますし、全庁的な大きな課題というふうには認識しているところです。

以上です。

## ○委員長

はい。どうもありがとうございました。

地域代表者の皆さんからご意見をいただき、また、意見交換も行い、その後、それを踏まえて委員の皆さんからご意見をいただきました。共通点がたくさんあるねというご指摘

がりましたが、旧赤羽台東小学校に関しては、避難場所として重要であるというご指摘があったかと思えます。これは、隣接する大学や公園とリンクさせながら、避難場所として活用していく。駅からも近いということで、そういう有意義な活用ができるかなと思えますが、ただ、避難場所、避難所としては、そういう緊急時の活用ですよ。そうすると、日常的にどうするのかということで、それに関しては、10代の若者たちの居場所をつくるという。これは、東京の西のほうでは活発に行われて、もう東のほうでは、今、これからかなという気もするので、大変有意義なご意見だったのかなと思えます。

一方で、あの敷地、地域の方からご指摘ありましたように、大学で住民の皆さんのエリアとはちょっと隔てられているような場所でもあります。そういう点では、南側のURの敷地と一体的に活用する。売却も含めて活用して、それを地域の施設、必要とする施設に還元するような方策も、あるいは、考えていく必要があるのかということを感じました。

旧滝野川第六小学校に関しては、やはり、年少人口が想定をかなり上回って増加していると。そういう中で、保育園が足りない、そして中学校も手狭になっていく。そういう課題に応える場所として十分に活用されていく必要があるのかなと思えました。

こういった日常的な活用、そこには高齢者の方たちの場というのも入ってくるのかなと、可能性はあるのかなと思えますが、それと、避難所という緊急時の役割というようなセットで考えていく。ここでは、あんまりこう、いわゆる市場に出して、売却益でどうこうという場所では、どうもなさそうだなと。これは皆さんの意見を伺いながら感じたことです。

大分、予定の時間、第1目標8時半で、リミットは9時なんですけど、9時が迫ってきてしまっているので、委員の皆さん、何か、これはどうしても言っておきたいということがありましたら。よろしいでしょうか。

それでは、続いて、最後、その他になりますけれど、事務局から説明をお願いします。

## ○区

はい。皆様お疲れさまでした。ありがとうございます。

次回でございますけれども、第3回目になります。7月2日木曜日、19時から、こちらの北とびあ14階カナリアホールで行いたいと思います。その際には、本日いただきました、地域代表者の皆様からの意見もまとめさせていただくのと、あわせて、6月13日まで広く、この二つの学校についての利活用について意見を募集しております。既にもう、いただいているものもごございますが、そういったものをまとめまして、資料として出させていただきます、さらに議論を深めていただけたらと思います。

また、あわせて、本日ご意見でいただきました人口の推計であるとか、まちづくりなどにつきましても、議論を深める材料にさせていただくために、その都度、事務局のほうで出せる資料はお出しさせていただいて、議論を深めていただけたらというように考えてございます。

以上です。

## ○委員長

はい。どうもありがとうございました。

それでは、以上をもちまして、第2回東京都北区学校施設跡地利活用検討委員会を終了

いたします。委員の皆さん、地域の皆さん、熱心にご参加いただきましてありがとうございます。